ドリカム基礎工法（太陽光発電パネル架台基礎）へのステンレス適用

用

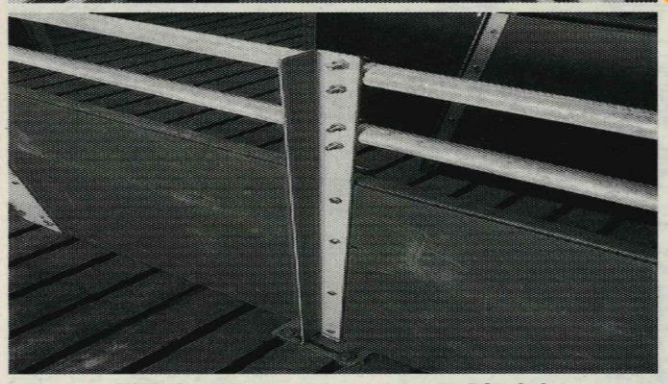
応募会社＝富安、推薦会社＝新日鉄住金ステンレス

選考理由＝ドリカム基礎工法は、石や土砂等の重量物を入れたスチールコンテナを太陽光発電パネル架台の基礎として用いる工法で、地面の環境や状況によらず設置可能。一般的な杭打設工法と異なり、土壌・地層調査が不要で工期が短縮できる等のメリットがある。

今回、設置されたメガソーラーシステムは、沿岸近くの塩害地域に位置することから、耐食性、耐久性を考慮し、ステンレス鋼が初めて適用された。材料選定にあたり、省資源型ステンレス鋼（SUS430LXクラスNSSC FWシリーズ鋼）を採用することで、再生可能エネルギーである太陽光発電と合せて社会環境負荷の軽減に大きく貢献している。

このドリカム基礎工法と設置する地域の腐食環境に適合したステンレス鋼を組み合わせることで、従来工法では設置困難とされた環境や地域に太陽光発電システムの設置が可能となり、今後もステンレス鋼を用いたドリカム基礎工法の需要拡大が期待できる。

使用鋼種はSUS430LX相当（NSSCFWシリーズ鋼）、使用量は0キロ/個。



豚舎用ステンレス資材

▽豚舎用ステンレス資材

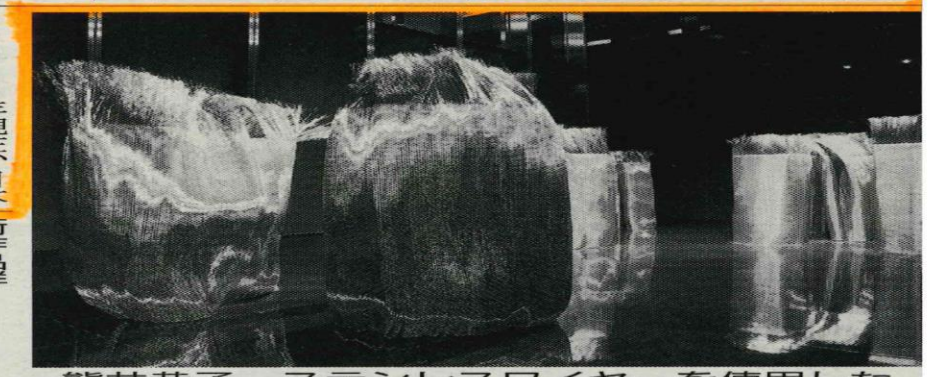
応募会社＝コマックス、推薦会社＝新日鉄住金ステンレス

選考理由＝畜舎（特に豚舎）の本体および付属設備においてメッキ製品からステンレス製品への移行が著しく進んでいる。主にアンモニア成分を多く排出する豚舎内においてメッキ製品は3～4年で寿命を終えており、初期投資費用はステンレスより安いものの、交換部材や施工費を考えた際のトータルコスト（ライフサイクルコスト）でステンレスが見直されている。

また、設備部材（間仕切り金具スノコ補強フラットバー、アングル等）で使う場所（耐食環境）によりSUS430やSUS304を使い分けて、更に強度の必要な部材には薄肉軽量化で低コストな高強度の二相鋼（NSSC2120）も採用された。

2017年現在、日本全国の豚舎戸数は約480万戸となっており、今回のステンレス採用実績から畜産設備市場は、今後新たなステンレス喚起市場として期待できると思われると同時に、牛舎等その他の畜産設備へも横展開（市場拡大）できる可能性がある。

使用鋼種はSUS304、SUS430、NSSC2120。使用量はSUS304（約0トン）、SUS430（約2トン）、NSSC2120（約10トン）。



熊井恭子　ステンレスワイヤーを使用した美術作品群

〈特別賞〉

▽熊井恭子　ステンレスワイヤーを使用した美術作品群

応募会社＝プルータス、推薦会社＝日本精線

選考理由＝熊井恭子氏は、ステンレスワイヤーを用いたメタリックテキスタイルアートの第一人者として、数多くの作品を手掛けている。

これらの作品はプルータスのアートスペースに常設され、一般の皆様にも身近に楽しんでもらえるような活動も行っている。その作品は金属ワイヤーが持つ強度やしなやかさ、ステンレスの持つ輝きや色合いを活かした表現で国内外から高く評価され、ステンレスのイメージ向上や文化に貢献している。

使用鋼種はSUS304。使用量は作品ごと10数キロ～数10キロ程度。

〈ステンレス普及功労賞〉

▽「翼竜のたまご～ステンレスは建築の絵の具だ～」（ステンレスに関する書籍）

応募会社＝坂上直哉＋アートアンシエイツ八咫、推薦会社＝日新製鋼

選考理由＝この本はクリエイティブ思考を持った一般読者、特に30～40代の若者たちを対象に製作された。それは、著者が建築空間におけるステンレス表現を目指したことから、メーカーの門を叩き、企業との関係の中から数々の「ステンレスのたまご」が孵っていった一普通なら起こり得ないこの不思議さを伝えようと企画したもの。その根底にはもちろん、志を持った一人の若者と受け入れた企業があったのだが、もうひとつ両者をつないだ素材・ステンレスの有する特殊性に注目した。多くの人の手によって生まれた合金・ステンレスは、世に出ていく時もまた多くの人の手を経るという宿命を背負っているように思える。

本書の中では、著者の発想と現場の人たちの創意工夫によって、重い硬いステンレスが時には軽く見えたり、虹色に染まったり、透明になったりと、変化に富んだ姿を見せる。1冊の本にまとめることで、広く著者のワークを知ってもらうと同時に、将来、ステンレスがクリエイティブな人たちによって、豊かな都市風景創出に大切な役割を担ってくれることを期待している。

「翼竜のたまご～ステンレスは建築の絵の具だ～」

第408号　（毎月1日、15日発行）

「豚舎用ステンレス資材」で受賞
「ステンの需要拡大目指す」
コマックス・小松社長

「ステンレス協会賞」で優秀賞を3回連続受賞

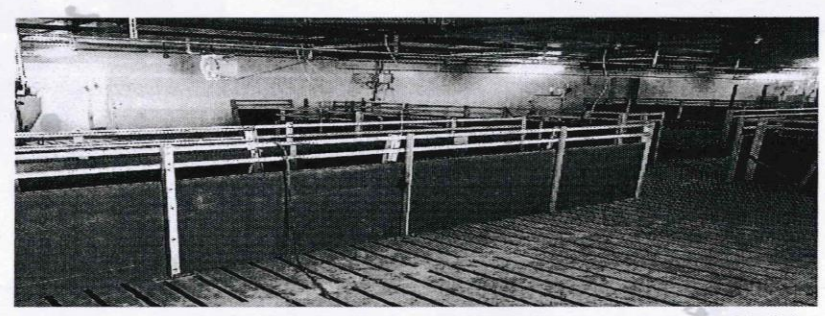
第一・土木業界に向けにステンレスコイル材の切板販売・加工品販売を行っているコマックス（本社・香川県坂出市、社長・小松正敏氏）は、ステンレス協会が主催する「第17回ステンレス協会賞」において、「豚舎用ステンレス資材」で優秀賞を受賞した。第15回の「太陽光発電パネル架台」、第16回の「管固定SUSバンド」に続き3回連続の受賞となる。ステンレス協会賞はステンレスの需要促進に貢献、またその可能性のある優れた作品を表彰する制度。

小松社長は「3回連続受賞は嬉しい。当社は他素材からステンレスに切り替えることで新規需要開拓を行ってきた。今回もそうした努力が評価されたことを誇りに思う」と喜びのコメントをした。

従来、豚舎などの畜舎はステンレス製品より費用の安いめっき製品が多かったが、アンモニア成分が多く排出されるため、めっき製品の寿命は3～4年とされていた。小松社長は「ステンレス製品はめっき製品に比べ、長寿命であり、メンテナンス費用などライフサイクルコストが抑えられることから、ステンレス化が進み、当社では2年ぐらい前から需要が伸びてきた」とし、「現在日本全国に約4800の豚舎があり、さらに牛舎、鶏舎なども含めると需要の裾野は大きい」とステンレス市場拡大の可能性を語った。

また同社は《ボルトから部品に、部品から製品》を合言葉とし、ステンレスの加工を中心とした営業力のあるメーカーを目指しており、小松社長は「今回の受賞は当社が目指すステンレス流通や建

コマックス・小松社長



ステンレス協会賞を受賞した「豚舎用ステンレス資材」

メーカーとしての第一歩になる。4回連続受賞できるようステンレスの需要拡大に繋がるステンレス製品を生み出す努力をこの後もしていく」と述べた。

※ステンレスニュース平成30年4月1日記事抜粋

優秀賞
厨房用ステンレス資材
株式会社コマックス 殿

化粧室

第17回 ス レス協会賞表彰式
優秀賞